

## GRASP-Japan ムカラバ地域活動報告( 2010年度)

### 1. 背景

ガボン南西部のムカラバ・ドウドウ国立公園は、大型類人猿をはじめ数多くの希少種が生息する重要な保護地域である。その一方で、地域住民の収入源となる産業は乏しく、政府や国際機関が推進するエコツーリズムの導入も進んでおらず、地域住民の生活水準は低いままである。そのため、近年になって保護活動と住民生活のコンフリクトが顕在化しつつある。とくに大きな問題になっているのが、動物による畑荒らし＝獣害である。将来的に地域住民と強調してムカラバのゴリラ・チンパンジーおよび生物多様性の保全を推進するためには、(1)有効な獣害対策の検討と実行、(2)村人の自立支援、(3)地域住民への啓発活動、(4)将来のエコミュージアムに向けた準備が不可欠である。

2008年にはドウサラ村の地域 NGO と連携し、地域住民の自立支援を行う目的として医薬品と学用品の寄付をした。また日本人研究者が使用していた建物を地域のコミュニティーセンターとして利用した。2009年には地域住民によるエコ・ミュージアム活動として森林モニタリングを住民の手で実施し、ゴリラ映像上映会など啓発活動を行った。獣害対策に関しては 2008年から住民への聞きとり調査と獣害のモニタリング調査をおこない獣害状況の把握につとめ、有効な獣害対策について検討した。

### 2. 2010年度の活動

#### (1、2) 獣害対策および住民の自立支援

これまでの調査と討論から、住民自身が畑に泊まりこみ見張りを行うことが有効で持続的な獣害対策であることが確認された。そこで見張り小屋と畑仕事に必要な物品(トタン、ランプ、山刀、斧など)を購入し住民に供した。物品の購入に先立って各村の代表者および地域の保護活動運営委員会のメンバーによる会合を開き、住民自身が主体的に見張り計画と必要を行うよう促した。次に、会合で出された提案をもとに購入品と分配先のリストを作った。加えて、購入した物品の分配は運営委員会が中心となっておこない、研究者がそれをサポートする体制をとり、住民の自立を促した。

今後は、ガボン人研究者と協力して物品の利用状況を確認するとともに、住民同士の協力体制が確立されているかを見極め、必要に応じて追加の援助を検討したい。

#### (3) 村人への啓発活動: 絵画コンクールの実施

GRASP-Japanとして地域の子どもたちによる動物絵画コンクールを構想していたが、まったく偶然、ドウサラ村の小学校長も同じ構想を持っていることがあきらかになった。そこで、校長の提案を受けるかたちで、子どもたちの自然への意識を高め保全について考える機会を得る目的で、絵画コンクールを実施し、画材やコンクール開催のための画材、賞品の援助を行った。計 48人の

児童が参加し、ゴリラやゾウ、バッファローなど多くの動物を生き生きと描いた。また各賞を選んだ大人たちも子どもの絵を通じて自然や保全について考える機会を得ることができた。すべての絵はドウサラ村に展示した後、80km離れたチバングの町でも展示し、町の子供たちにも公開した。このことは、地域住民による周辺地域への啓発活動という意味合いを持ち、エコミュージアム活動の端緒となる重要な意義があったと考えている。今後は絵画教室の開催や野生動物のビデオ鑑賞会も考えている。

#### (4) コミュニティセンター(エコミュージアム)の修繕

将来的なエコミュージアム開設に向けて、本や資料、標本の展示ができるようコミュニティセンターの修善・補強を行った。具体的には壁と屋根の隙間を埋め、壁にセメントを塗ることで雨水が入ったり壁土が流れおちるのを防いだ。今後はエコミュージアムの内容について地域住民と話し合いの場を持ち、さらに拡充化を目指す予定である。

### 3. 会計報告

	収入の部		支出の部	
	項目	金額	項目	金額
JPY(日本円)	前年度繰越金	100,399	CFA フランへ両替	1,050,000
	分配金	1,100,000	次年度繰越金	150,399
	合計	1,200,399	合計	1,200,399
EUR(ユーロ)	前年度繰越金	15	次年度繰越金	15
	合計	15	合計	15
XFA(CFA フラン)	前年度繰越金	2,925,426	獣害対策費用	2,877,480
	日本円から両替	6,133,390	エコミュージアム修繕代	535,200
			絵画コンクール費用	326,785
	合計	9,058,816	次年度繰越金	5,319,351
		合計	9,058,816	

以上